

井手町の豊かな自然が与えてくれた 草木染による地域活性化

四季の草木染 野の花工房

松本 つぎ代さん
松本 陽菜さん



松本 つぎ代さん (右)
松本 陽菜さん (左)

自然の恵みを色彩で愛でる草木染

豊かな自然に囲まれた井手町は、四季折々の植物と出会うことができます。その植物を使った草木染の作品づくりを約30年にわたって行っているのが、四季の草木染 野の花工房です。

作品づくりと平行して草木染教室も開いています。今では月に50名ほどの生徒さんが草木染を体験しています。染めに使う植物は実に多彩です。「ヨモギ」「カラスノエンドウ」「ドクダミ」「セイタカアワダチソウ」といった身近な植物のほか、城陽市の「梅」や宇治田原の「茶」。それら豊富な地域資源は、化学染料とは違った独特の色を生み出します。教室内で作る品もストールやTシャツ、ハンカチや布など様々。季節を愛で、自然を感じ、その恵みを色として楽しむ。そんな体験ができるのが、野の花工房の魅力となっています。

工房を主宰するのは、松本つぎ代さん。染色の道を志すようになったのは、染織家で人間国宝の志村ふくみさんが手がけた着物を見たことからなのだそうです。「たまたま、志村先生の作品を見る機会があつて。自然から生み出された色の美しさに、ひと目で魅了されました。そこから、つぎ代さんの試行錯誤の日々は始まります。「志村先生に弟子入りさせて頂きたいと思ったんですが叶わずで、自己流でやってみることにしました。当時は草木染をやっている人は少なく、本もあまりありません。糸や布を買ってきては染め、という毎日が3年ほど続きました」。

新しい風が吹き、進化する野の花工房

月日を重ねるにしたがつて、徐々に自分の草木染の世界を創り出せるようになってきたつぎ代さん。昭和63(1988)年からは年に2回のペースで展示会を開催するようになります。そこで服やストール、バッグなどの作品を目にした人たちが、草木染教室に参加してくれるようになりました。

そうして少しずつ前進してきた野の花工房に、新たな風が吹き始めたのが平成20(2008)年。長男の拓美さんが野の花工房をサポートするようになったのです。インストラクターとして教室に携わるかわら、イベントの企画を行うなど、教室運営が充実するようになりました。

さらに平成23(2011)年には、東京でアパレル関係の仕事をしていた長女の陽菜さんも加入。ファッション業界での経験を活かし、商品力のアップや販路の拡大に

観光資源の活用

挑んでいます。「服飾の仕事をするようになり、日々いろんな化学染料で染められた洋服と接するようになりました。そこで母の草木染の、自然が生み出す色の素晴らしさに気付かされたんです。これを現代にフィットする高感度なファッションとして、広く発信していけたらいいなと思いました」と陽菜さん。

平成24(2012)年7月、「きょうと元気な地域づくり応援ファンド支援事業」に採択されると、陽菜さんは、野の花工房のファッションブランドづくりに着手しました。新ブランド「from GARDEN」の設立をきっかけに、野の花工房は次のステージへと歩み始めたのです。



昨年(2011年)の秋冬アイテムのひとつ、薄手のニットを重ねたコート



こちらも昨年(2011年)の秋冬より、ニットのワンピースとストール

自然を纏うことができるファッションアイテム

from GARDEN から作り出されるニットのカーディガンやワンピース、ストールといったアイテムは、その全てが自然の色です。その色はどこで自生した、どのような草木から生まれたのか。そのことを商品タグや新たに立ち上げたウェブサイトで発信し、身に付ける人にとってただ「所有」するモノではなく、自然がもたらしてくれる豊かさを「体験」できるモノへと昇華させていこうとしています。そうしたアイテムは、心に潤いやゆとり、癒しをもたらす、パワーを与えてくれます。

ブランディングや商品開発の時期を経て、平成25(2013)年3月には東京で行われた大規模なファッションの合同展示会に出展しました。陽菜さんは、そこで一つの発見があったといいます。「当初は、セレクトショップに商品を卸すことを目指していましたが、



商品タグには、染色に使われた植物が書かれています



「阪急うめだ本店」の期間限定ショップ

ろが、展示会でいろんなバイヤーさんとお話をさせていただくと、百貨店のバイヤーの方々に興味を持っていただくことが多かったんです。

同年、展示会をきっかけに、「大阪高島屋」と「阪急うめだ本店」で期間限定ショップをオープンする機会を得ました。来店者にも好評で、平成26(2014)年にもショップを出すことが決まっています。また、他の百貨店などからも、出店のオファーを頂くようになりました。

井手町の魅力を発信する拠点に

from GARDEN の商品は、陽菜自身が欲しいと思える、30~40代の人たちをターゲットにしたアイテムです。しかしながら百貨店に出店してみると、50~60代のつぎ代さん世代の人たちにも評判がよかったそうです。「何より、世代を超えた多くの人たちに商品を見ていただくことが大きいと思います」とつぎ代さん。陽菜さんは、「草木染の魅力を活かしながら、上質なファッションを求める人に着てもらえるようなものづくりを続けていきたいですね」と語ります。

野の花工房の新たなブランドfrom GARDEN は、まだ始まったばかり。今後さらに進化していくことでしょ。陽菜さんは、「そうして野の花工房の草木染の商品が注目されることで、井手町の地域活性につながっていけば嬉しい。百貨店での出店だけではなく、拠点となるようなショップやギャラリーを井手町に構えることができれば」と、生き生きとした表情で夢を語ってくれました。

事業概要

四季の草木染 野の花工房

http://kyoto-nonohana.jp/ (草木染教室)
http://www.fromgarden.jp/ (from GARDEN)
代表：松本 つぎ代
業種：染色業
創業：昭和60年4月
住所：〒610-0302京都市綴喜郡井手町井手宮ノ本73-5
TEL：0774-29-3337 FAX：0774-29-3337